

城陽高校図書館だより

ふみくら

2024-No. 1

令和6年4月26日

京都府立城陽高等学校図書館発行

新入生図書館オリエンテーション終わりました！

4月15日からの一週間をかけて新入生のオリエンテーションを行いました。みんな静かに話を聞いてくれました。また、図書もたくさん借りてくれました。(半ば、強制的に貸しだしたクラスもありましたが…) 新入生のみなさん、2、3年のみなさん、今年もたくさん図書館を利用してください。



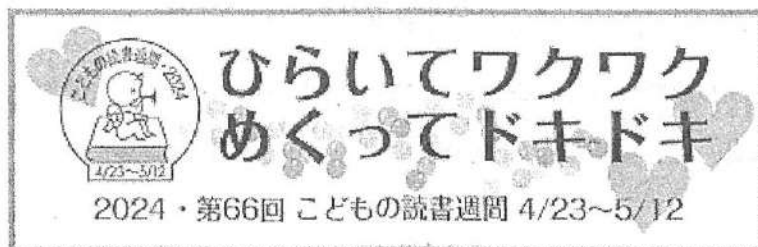
ただいま、子どもの読書週間真っ最中！

子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)に誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日～14日)でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より現在の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)～5月12日に期間を延長しました。開始当時より、図書館・書店・学校を中心に、子どもたちに本を手渡すさまざまな行事が行われてきました。

幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか……。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。

今年読書

週間の標語です。あなたも本を開いてドキドキしませんか？



ゴールデンウィーク特別貸出を行います。

明日4月27日(土)よりゴールデンウィークです。今年は間に平日の入った前半と後半の形になっていますが、各地でいろんなイベントがあると思います。楽しんで来て下さい。ゴールデンウィーク期間中は家庭での読書はもちろん旅行の合間に好きな本を読んだり、旅行ガイドブックを持って行くのもいいですよ。



図書館では本日4月26日(金)から5月2日(木)までの間にゴールデンウィーク特別貸出を行います。

貸出冊数 10冊まで または

長編の本なら1タイトル(例:『スラムダンク』1～20巻の20冊を借りるのはOK)

返却期日 5月13日(月)

たくさん本を借りて下さい。

図書館担当の先生からのメッセージです。

今年度はこの3人で図書館を運営します。



南 歩里 先生

皆さん、はじめまして。図書室の運営をお手伝いしている南と申します。城陽高校の図書室には、小説をはじめ、雑誌や漫画など、まるで本屋さんのように幅広い種類の書籍がたくさん置いてあります。国語科の私としてはやはり活字に触れて欲しいところですが、まずは自由に本の世界を楽しんでもらえれば、と思います。読書をしたときにはもちろん、勉学に励みたいとき、少し息を抜きたいときなど、気軽に足を運んでくださいね。



宮井 章 先生

図書室にいるネットワーク担当(教科は商業・情報)の宮井と言います。城陽高校に来て7年目になります。授業で利用しているiPadのお世話もしています。図書室の部屋に来るまでは本をほとんど読まなかったのですが、身近に本があることで本をたくさん読むようになりました。読んでみると大変おもしろく次々と読みたくなります。ぜひ図書館でいろいろな本を選んで読んでみてください。人生が広がることになると思います。

今出 和良 先生

城陽高校勤務6年目の図書館司書です。この図書館にはいろいろな本の他に随所にくまモングッズがあります。そのせいか「くまモン先生ですか？」と尋ねられることがあります。くまモン先生は別にいます。会いたい生徒は火、木、金の午前中に来て下さい。私はくまモンよりネコの方が好きです。この図書館にネコに関する本が多いのは私の趣味(?)ではないはずですが……。

裏面にも記事があります。是非見て下さい。

はじめに……

読書！！ と言われると、身構える人いませんか？また、かたい文章の本を読まないといけない！！と考える人いませんか？

文科省のホームページより

読書することは、「考える力」、「感じる力」、「表す力」等を育てるとともに、豊かな情操をはぐくみ、すべての活動の基盤となる「価値・教養・感性等」を生涯を通じて涵養していく上でも、極めて重要である。 ※涵養…無理をしないでゆっくり養い育てること

とあります。つまり、読書をするすることで、それまで知らなかったり、考えたりすることがなかったものに触れることができ、結果、その人の考えやものの見方が広がっていく、ということです。

となると、やはり「難しい本を読むべき」なのでしょう。私個人としては、「ほんの少しで良いから背伸びをして本を読みなせんか？」ということをも提案したいと思います。

すでに読書が好きな人は、一度いつも読むジャンルとは違う本を手にとってみてはいかがでしょう？新しい表現、新しい考え方と出会えるかもしれません。それは、一日24時間365日という限られた中で生きる私たちにとって、本当は会うこともかなわないような人と、まるで対話したかのようにその人の思考に触れることができたり、お金と時間をかけないと行けないような世界の片鱗を覗くことができたりする、読書とは「世界」との出会いだと思います。

では、読書をするのが苦手、やったことない、興味もない……そんな人は、この一年間の間に一度図書館へ足を運んで、何か一つ本を手にとってみてはいかがでしょう？そこはネットの世界にはない「出会い」が待っていると思います。

今回、何度か本を紹介します。私は、読書から離れている人、いつも同じジャンルばかり読んでいる人などを中心に「こんなのに触れてみては？」のスタンスで紹介してみたいと思います。皆さんが、この一年間で本の世界から何かを感じ取り、一つでも新しい何かと出会ってくれることを願い、前書きを終えたいと思います。

申し遅れましたが、今回この紹介を担当するのは、学校図書館のことを大学で学び、学校図書館司書教諭の資格を取りました中平里佳（国語科）です。

中平 オススメ本！

ドラゴン桜公式副読本 16歳の教科書～なぜ学び、なにを学ぶのか～

編著：7人の特別講義プロジェクト&モーニング編集部 発行所：株式会社 講談社

さて今回はいきなりですが、皆さんに問います。皆さんは何故「学ぶ」のですか？皆さんは、毎日学校に来て何を「学ん」でいますか？

数十年前、当時高校生だった私はこの間に対して答えられなかったと思います。毎日「何でこんな事覚えるんだろう？」「この公式、何でいるんだろう？」「これって何か役立つの？」とばかり考えていました。そして、「早く部活の時間にならないかなー」なんて考えていた高校生でした。（ああ、当時お世話になった先生方、及び全国の先生方に平謝りいたします……）

この本は、そんな「**何で今これを学んでいるのか？**」の疑問に対して、一つの考え方を示してくれるものになるのでは、と思い、ご紹介します。

古典は少し調べれば現代語訳は出てきます。英語は今、スマホがあれば翻訳もある程度出来てしまいます。数学や理科が苦手だった私は呪文のような時もありました。（全国の数学・理科の先生、すみません！！）実は、この本の「はじめに」にも同じようなことが書かれています。

この本で各教科のスペシャリストとして紹介されている先生方が、それぞれの教科にもたれがちな疑問について丁寧にわかりやすく語ってくれています。

新しく高校生となった一年生の皆さん、何で高校で学ぶのですか？進級した2、3年生の皆さん、もちろん「進路実現」のために勉強もしていますが、そもそも授業で各先生方は何を示してくれているのでしょうか？この本で紹介される見方で授業に参加してみると、目の前の黒板や教科書の言葉から違う世界が見えるかもしれません。

ちなみに、私はこの本を読んだことと、以前教員ではない仕事で中学校の数学と理科を学び直したことで、その世界の面白さに改めて驚かされました。（問題が解けるかどうかは別の問題 笑）

なお、この「〇〇歳からの～」や「〇〇歳の～」という本は世の中にもたくさん出版されていますので一部をご紹介します。

『10才からのお金の貯め方・使い方』『14歳の君へ どう考え どう生きるか』

『40歳の教科書』 などなど 何歳からでも読むのは遅くない！